

高裁なごや 第50号 – 法の日週間行事 –

裁判所、検察庁、弁護士会共催で16歳～25歳の方を対象に、法の日週間行事「18歳から考える司法と裁判 – 裁判員裁判を通じて –」を実施しました。

会場にお越しただけでない方にもご参加いただけるよう会場とオンラインの同時開催とし、裁判官、検察官、弁護士を交えての意見交換や質疑応答を行いました。



模擬裁判員裁判動画

模擬裁判員裁判についての意見交換

お金の工面に困って闇バイトに応募し、強盗致傷罪を犯した18歳の被告人の模擬裁判員裁判を題材として、被告人が有罪か無罪か、実刑相当か執行猶予相当かを考え、グループに分かれて意見交換しました。

参加者の皆様の意見は実刑相当7人、執行猶予相当9人と分かれる結果になりました。

同じ事例を見ても人によって感じ方や重要視する点が異なることを知ったり、他の参加者の意見を聞いて新たな気付きを得たりするなど、裁判員裁判の雰囲気や進め方を体感していただくことができました。

質疑応答のコーナー

質疑応答ではたくさんの質問が寄せられ、裁判官、検察官、弁護士が、自身の学生時代の経験や現在の仕事に対する日々の思いなどをそれぞれの視点から回答しました。

法に携わる仕事を志したきっかけ、仕事のやりがいとは？

司法試験を乗り切るモチベーションの保ち方を教えて！

裁判の準備って何をしているの？

オンライン参加者は
チャットで意見投稿

意見交換の様子

質疑応答の様子

たくさんのご質問
ありがとうございました！

終わりに

参加者の皆様からは、「法学部を目指しているのでとても勉強になった」、「法律の知識がなくてもわかりやすく話をしてもらえた」、「貴重な経験ができた」などのご感想をいただきました。

今後も司法や裁判を身近に感じていただけるような広報活動に取り組んでいきたいと思っております。

ご応募、ご参加いただきありがとうございました😊